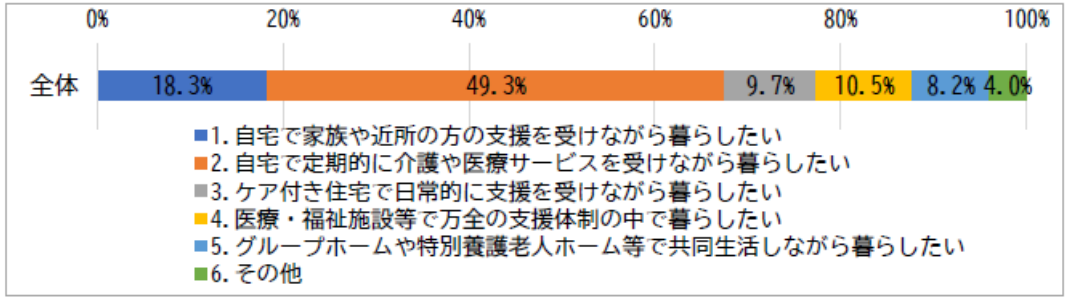
介護サービス事業所の整備目標について

１　現状について（福井市の現状の事業所数）

事業所の種類	サービスの種類	事業所数見込（R8末）	定員数見込（R8末）
『泊まり』が可能な事業所	特別養護老人ホーム	21	1,484
	介護老人保健施設（老健）	9	932
	介護医療院	2	140
	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）	18	426
	認知症グループホーム	41	540
	地域密着型介護老人福祉施設（小規模特養）	15	424
	小規模多機能型居宅介護	28	730
	看護小規模多機能型居宅介護	10	267
合計		144	4,943

2　現状について（ニーズ調査等結果）

(6) 今後、介護や支援を受けて暮らす場合、どのように生活したいですか。(1つに○)



		回答n	1. 自宅で家族や近所の方の支援を受けながら暮らしたい	2. 自宅で定期的に介護や医療サービスを受けながら暮らしたい	3. ケア付き住宅で日常的に支援を受けながら暮らしたい	4. 医療・福祉施設等で万全の支援体制の中で暮らしたい	5. グループホームや特別養護老人ホーム等で共同生活しながら暮らしたい	6. その他
全体		2,292	18.3%	49.3%	9.7%	10.5%	8.2%	4.0%
男性	男性総数	1,007	21.9%	48.0%	8.1%	11.0%	6.7%	4.3%
	65～74歳	443	21.9%	47.0%	10.6%	9.0%	5.6%	5.9%
	75～84歳	453	20.1%	49.9%	6.0%	12.4%	8.4%	3.3%
	85歳～	111	29.7%	44.1%	7.2%	13.5%	3.6%	1.8%
女性	女性総数	1,285	15.4%	50.4%	10.9%	10.1%	9.4%	3.8%
	65～74歳	569	13.0%	48.5%	14.2%	8.6%	10.7%	4.9%
	75～84歳	567	16.4%	53.1%	7.9%	10.4%	8.6%	3.5%
	85歳～	149	20.8%	47.0%	9.4%	14.8%	7.4%	0.7%
家族構成	一人暮らし	391	11.0%	48.1%	10.5%	12.3%	11.0%	7.2%
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	817	17.1%	53.5%	9.5%	9.8%	7.1%	2.9%
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	66	21.2%	39.4%	16.7%	9.1%	7.6%	6.1%
	息子・娘との二世帯	594	22.9%	49.5%	8.8%	9.3%	6.7%	2.9%
	その他	352	19.6%	43.8%	10.2%	12.2%	9.1%	5.1%

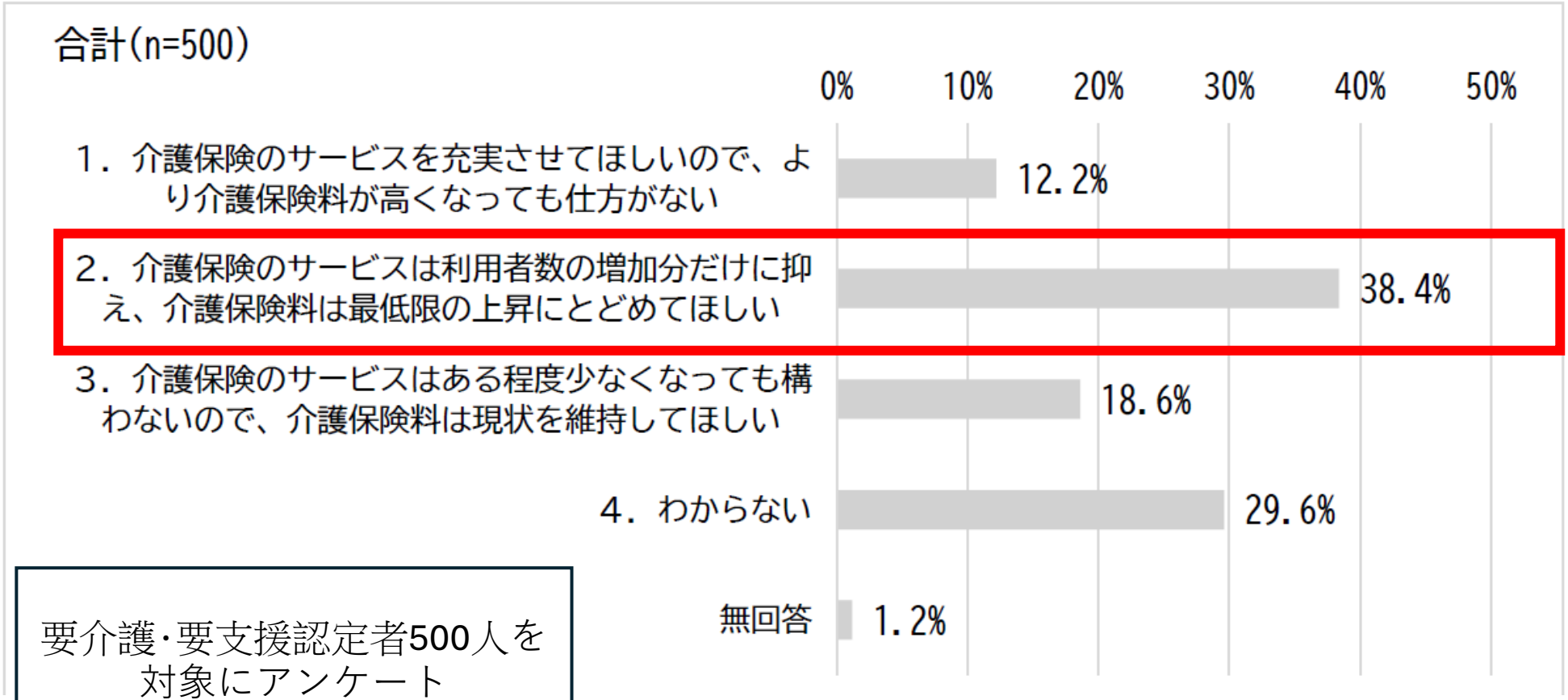
7割近くが自宅で暮らしたいと回答
（合計で67.6%）

市内に居住する65歳以上の男女4,000人を対象にアンケート

令和7年度在宅介護実態調査(抜粋)

(15)　介護保険の保険料は、介護サービスを提供する費用や特別養護老人ホーム等の施設を整備する費用に充てられています。介護保険のサービスの在り方について、ご本人のご意見に近いものは次のうちどれですか。　（１つに○）

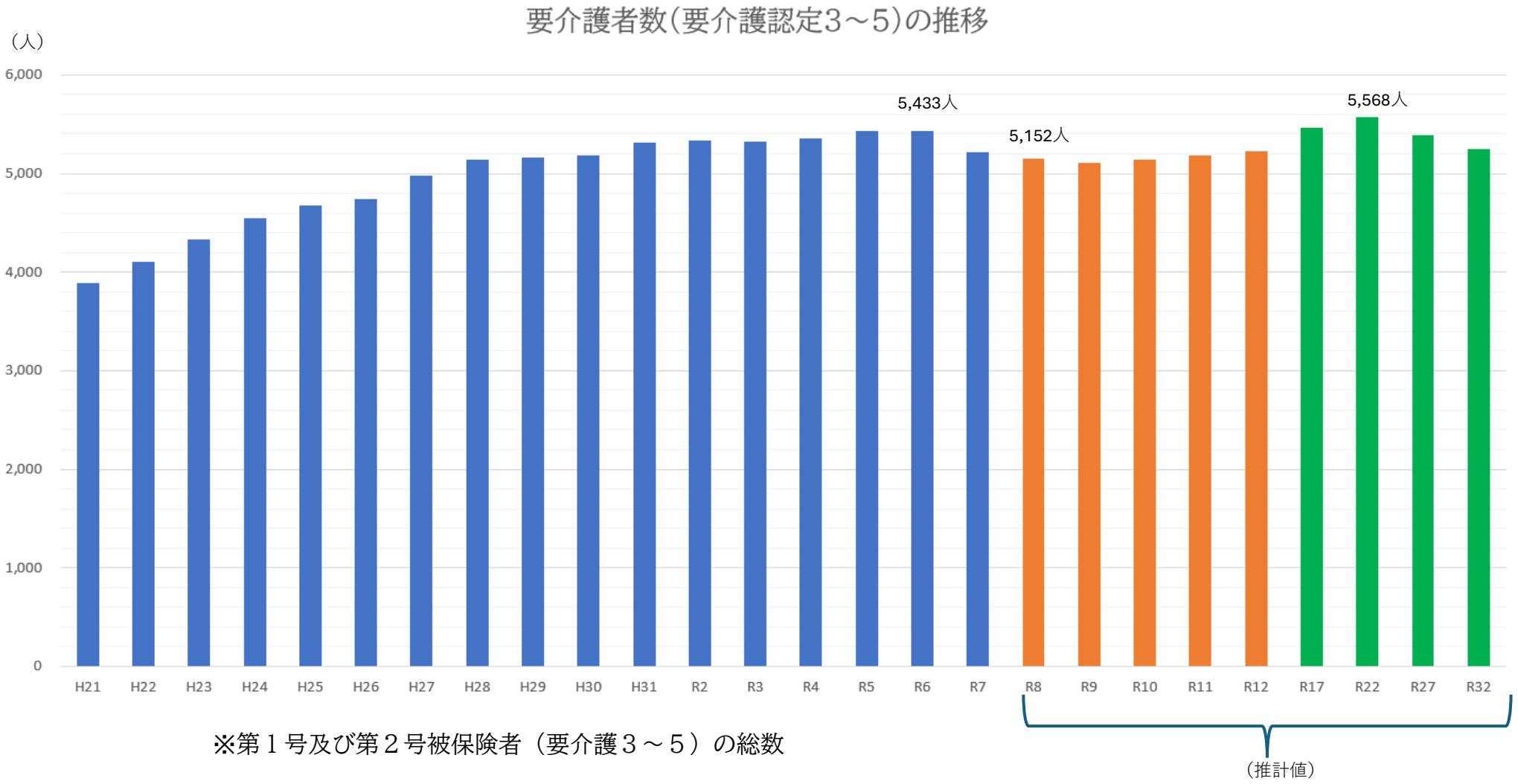
図表 1-15　介護保険のサービスの在り方について（単数回答）



要介護･要支援認定者500人を対象にアンケート

3　現状について（要介護者数の推計）

『泊まり』が可能な事業所での対応が必要となる可能性の高い、市内の要介護（3～5）の人数についてグラフで示す。
R6まで増加するが、R7以降にいったん減少し、また増加に転じる。福井市ではR22（2040年）頃に人数のピークを迎える予定。
そのため、施設系サービスを増やすとハード整備が過剰となる可能性がある。



※第１号及び第２号被保険者（要介護３～５）の総数

４　現状について（その他）

近年、介護人材不足を理由として、廃止したり施設定員を減らす事業所がある。

このことから、新規事業所を多く作れば、別の事業所の職員が不足することが考えられる。

仮に、新規施設数を増やしても、全体として介護人材が足りなければ、結局、待機者が解消しないリスクがある。

令和８年７月に外国人介護人材活用アンケートを実施した。
回答のあった６１事業所のうち、７事業所が実際に定員削減や利用者の受け入れ制限がある旨を回答。

分類	件数	内容例
支障なし・影響なし	39件	「なし」「ない」「無」「支障なし」「現在はない」など
定員削減・受入制限	7件	定員70→50、160床→140床、80名→66名、受入調整など
営業縮小・事業休止	2件	日曜営業中止、事業休止予定
夜勤・人員配置の問題	2件	夜勤職員不足、夜勤配置減算
コロナ・感染対応による制限	1件	コロナ罹患による一時的受入制限
看護師不足による受入制限	1件	医療処置が必要な利用者の受入不可
将来的な懸念・検討段階	8件	「将来はそのようになると思う」「検討したことはある」「減らすことは検討していない」等
回答不明・数値のみ	1件	「1」

【問い】
介護人材の不足により、貴事業所で実際に受入人数や床数を減らしたり、減らすことを検討したことはありますか。

5　施設整備全体にあたっての考え方

① ・高齢者は居宅志向である（67.6％）

・R22（2040年）以降には要介護者数は減少（ハード整備が過剰になるリスクあり）

・人材不足のリスクあり

・介護サービスの充実より、サービスは利用者数の増加分に抑え、
介護保険料は最低限の上昇にとどめてほしい人の割合が高い

・オアシスプランの方向性は、持続性強化、認知症対策

・R22（2040年）に向けて要介護者数は増加



② ①を踏まえて「施設系サービスは増加しない」、「施設居住系の増加はR22（2040年を踏まえて）必要最低限で抑える」、「居宅サービス、認知症施策は強化」の方向性で考える。

③ ①②を踏まえて具体的な数量を決める上で、事業者に実施した開設希望調査は、利用者の需要や介護人材確保をある程度踏まえた数値とも考えられることから、これを参考にして数量を決める。

6　施設の第１０期整備数

R8の要介護者（3～5）は5,152人に対して、『泊まり』が可能な事業所の定員数の合計は4,943人である。

令和22年（2040年）に要介護者（3～5）は推計5,568人となり、最大を迎える見込みである。

これに対して、第10期において、定員増を図り、今後も各計画期間において仮に同程度の定員増を進めれば、数量的には概ね対応できる想定である。

サービス種別		開設希望調査	第10期整備数（計画値）		第9期整備数			
					（実績値）		（計画値）	
		施設数・ユニット数	施設数	定員	施設数・ユニット数	床数	施設数・ユニット数	床数
施設居住系	認知症グループホーム	2 ユニット	2 ユニット	18	6 ユニット	54	6 ユニット	54
	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）	51（定員）	—	51	—	54	—	54
居宅系	看護小規模多機能型居宅介護	1	1	29	1	—	2	—
	小規模多機能型居宅介護	1	1	29	1	—	1	—
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	1	—	0	—	0	—